

一橋大学大学院社会学研究科研究科内センター

2018 年度活動報告書・2019 年度事業計画概要

センター	名称:ジェンダー社会科学研究センター ウェブサイト: http://gender.soc.hit-u.ac.jp/ 学内活動拠点・同電話番号:貴堂研究室 別館2階 042 (580) 8492
報告者 (センター代表者)	氏名: 坂 なつこ 電子メール: sakan.mol@r.hit-u.ac.jp
報告書提出年月日	2019 年 4 月 5 日

2018 年度活動報告

社会学研究科内センター規程「(別表)研究科内センター設立申請書作成時の留意点」の内容も踏まえ、以下の諸点につき項目別に具体的かつ明確に記述してください。記載は 10.5 ポイントで行い、必要に応じて欄の仕切りを上下に調整し、最大でも3頁以内に全体を収めてください。図表を含める場合も、この範囲に収めてください。

1. 組織構成員の異動と理由説明

2018 年度は、代表(坂なつこ)、教育部門総括 1 名(洪郁如)、研究部門総括 2 名(貴堂嘉之、森千香子)、総務・財務部門総括 1 名(佐藤文香)と、共同推進者 24 名(井川ちとせ、伊藤るり、大河内泰樹、太田美幸、尾崎正峰、加藤圭木、木本喜美子、小井土彰宏、坂元ひろ子、ソニヤ・デール、中野聡、山田哲也、越智博美、河野真太郎、竹内幹、森口千晶、イ・ヨンスク、中井亜佐子、横山泉、井上間従文、柘植道子、長塚真琴、Chris Ahmadjian、松塚ゆかり)の組織構成員で活動を行った。

2. 当初事業計画に照らした活動実績

2.1 教育実績

ジェンダー教育プログラム(GenEP)部門では、2007年度より全学的なプログラムを提供してきたが、2018年度は基幹科目群として学部9科目、大学院1科目、連携科目群として全学共通教育9科目、学部37科目、大学院13科目、合計47科目を提供した。履修者数は学部生6,331名、院生143名、総計延べ6,474名であった。運営は安定しているが、後任補充ができていないため科目・履修者数はともにやや減少傾向にあり、特に大学院科目の充実が課題であると言える。また、2014年～2017年度の先端課題研究14「ジェンダー研究の過去・現在・未来 一女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」の成果として『ジェンダー研究を継承する』(人文書院、2017年)を刊行に続き、2019年1月にインタビュー対象者の経歴・写真・動画を掲載し、トランスクリプト全文がダウンロード可能なアーカイブサイトを公開した。

2.2 研究実績

本センター構成員の個々の研究実績は多岐にわたるため、代表および部門総括の業績の一部を掲載する。

- 坂なつこ「ノルベルト・エリアスにおけるサバイバルユニットとスポーツ」『一橋大学スポーツ研究』第 37 巻、2018 年。
- 佐藤文香「女性兵士は男女平等の象徴か？」『世界思想』46 号、世界思想社、2019 年。
- 佐藤文香『『生きづらさ』をめぐる争いを超えて 他者への共感はいかに育めるのか』『Journalism』339 号、朝日新聞社、2018 年。
- 貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』岩波新書、2018 年。
- 貴堂嘉之「高校世界史教科書におけるアメリカ合衆国一人種・エスニシティ・人の移動史を中心に」小澤実ほか編『歴史学者と読む高校世界史』勁草書房、2018 年。
- 森千香子「「コーナーストア・キャロライン事件」とは何か：黒人差別の遺産とジェンダー・セクシュアリティ」『UP』通巻 556 号、東京大学出版会、2019 年。
- 森千香子「パリ市における「移民・難民」集積地域と「共住」の試み：「キャンプ」から「市民ハウジング」まで」『都市計画』通巻 336 号、日本都市計画学会、2019 年。

2.3 外部機関等との連携および社会貢献の実績

【外部機関等との連携】

外部講師を招聘し、下記の講演会、シンポジウムを開催した。

①シンポジウム「トランスジェンダーアーカイブ・歴史・教育」2018年4月29日

講師:アーロン・デヴォー、三橋順子、薬師実芳、畑野とまと 司会:ソニヤ・デール 参加者数:104名

②公開レクチャー・シリーズ(第42回)2018年6月27日

講師:中村江里、タイトル「感情を管理される日本軍兵士たち——軍事化されたマスキュリティと戦争神経症

司会:佐藤文香(国内交流セミナー[社])参加者:18名

③講演会「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」(共催) 2018年7月4日

講師:吉田徳史、森幸雄、市川綾子

④公開レクチャー・シリーズ(第43回)2018年9月21日

講師:ザフラ・アリ、タイトル「ポストコロニアル世界のイスラームと女性・ジェンダー」司会:森千香子(新学術領

域研究「グローバル関係学」(B03 文明と広域ネットワーク:生態圏から思想、経済、運動のグローバル化まで)

参加者:54名

⑤公開レクチャー・シリーズ(第44回)2019年1月9日

講師:鈴木聡子、タイトル「ジェンダー、人種、文化ナショナリズム——外国人の話す日本語におけるジェンダー表

現をめぐって」司会:ソニヤ・デール(GLPプログラム) 参加者:15名

⑥公開レクチャー・シリーズ(第45回)2019年1月25日

講師:平山亮、タイトル「うろたえる男たち——女たちの告発に、私たちはいかに応えてきたか/応えるべきか」

司会:佐藤文香(国内交流セミナー[社])参加者:47名

【社会貢献】

公開レクチャー・シリーズは、毎回、学会や市民ネットワークを通じた広報を行っており、学外からの研究者および市民にも開かれたイベントとして広く社会貢献に役立っており、本センターの開催するイベントに対し学内外から高い期待が寄せられている。

2.4 外部資金獲得実績

なし

3. 2019年度事業計画概要

2019年度は、下記の3点を行うこととする。

(1)ジェンダー教育プログラムの運営を行う。

(2)共同推進者の協力を仰ぎつつ、公開レクチャー・シリーズを企画・実施する。

(3)「ジェンダー研究を継承する」アーカイブサイトの国内外への発信に向けて努力する。

4. 2019度における組織改廃計画

本センター規約(2010年4月1日施行)に基づき、2019年1月31日の運営協議会において、次年度の代表および各部門総括の選出を行った。共同代表として貴堂嘉之・中井亜佐子、教育部門総括として井川ちとせ、研究部門総括として洪郁如、財務・総務部門総括として佐藤文香が選出された。また、社会学研究科から安川一が新たに共同推進者として加わることとなった。

5. その他特記事項(研究科への要望等は本欄には書かず、別途研究科長にご相談ください。)